

# 〈セミナーのご案内〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

ニューキャンパスシリーズ 41 (通算 435 回)

2009 年 9 月 3 日 (木)

“アイデンティティ”の共有と教職員・学生・同窓力——

## 大学アーカイブズと自校教育の展開

～創設・試練・再興の歴史パワー／教養教育としての大学史～

- ※ [立教大] 学院史資料センターの開設と活動／自校史教育の意義・取組み／成果と課題
- ※ [大東文化大] 大東アーカイブズの設立と運営／百年史編纂準備活動／自校史教育への支援
- ※ [京都大] 教養教育としての自校史教育／授業の意図と内容／大学アーカイブズとの関わり
- ※ 大学史編纂の態様と特徴／外部専門家の役割と立場／「通史」「資料・年表」等の活用と効果

### ● 講師陣 ●

- 老川 慶喜 氏 / 立教大学経済学部教授、前・立教学院史資料センター長  
 兵頭 徹 氏 / 大東文化大学東洋研究所教授、大東文化歴史資料館運営委員  
 西山 伸 氏 / 京都大学大学文書館准教授  
 武田 秀司 氏 / 拓殖大学創立百年史編纂室  
 寺崎 昌男 氏 / 立教学院本部調査役、東京大学名誉教授、前大学教育学会会長

2009 年 9 月 3 日 (木) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)

地域科学研究会

高等教育情報センター

日時：2009 年 9 月 3 日 (木) 9:40～16:50

会場：日本教育会館 会議室 (東京・神保町)

千代田区一ツ橋 2-6-2 03-3230-2833

アクセス：東京メトロ半蔵門線・都営新宿線

「神保町駅」A1 番出口より徒歩 3 分

<http://www.jec.or.jp/koutuu/>

※会場の地図及び受講証を送付しますので必ずご確認ください。

参加費：A. ご一名 (資料代込)

41,000 円 (消費税込)

B. メディア参加 (資料・音声 CD 送付)

42,000 円 (送料、消費税込)

※参加費の払い戻しは致しませんので、申し込まれた方の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

☆FD・SD 及び BD 研修の本格化に伴い、2007 年から受講・修了証明書を発行しております。

キリトリ線 (※参加申込みの折は必ずお送りください)

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ

FAX または E-mail にてご送付ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880

三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658

郵便振替 00110-8-81660

全ての口座名 < (株) 地域科学研究会 >

※ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます。

申込先：地域科学研究会・高等教育情報センター

東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106

Tel: 03 (3234) 1231 / Fax: 03 (3234) 4993

E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)

URL: <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/>

### 研修会参加申込書

ニューキャンパスシリーズ 41

2009 年 月 日

大学アーカイブズと自校教育の展開

当日参加

メディア参加

( に  印を入れてください)

勤務先 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

連絡部課・担当者 \_\_\_\_\_

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法 (郵便振替・当日払い・銀行振込) 必要書類 [ 請求書  見積書]

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
09:40 ～ 11:00	<p>□ 立教学院史資料センターの活動と自校史教育 ～自校史教育の成果と課題～</p> <p style="text-align: right;">立教大学 老川 慶喜</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 立教学院史資料センターの開設             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 立教大学の概要</li> <li>(2) 『立教学院 125 年史』の編纂事業</li> <li>(3) 立教学院史資料センターの開設</li> </ol> </li> <li>2. 自校史教育〈1〉—立教大学の歴史             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 『立教大学の歴史』の刊行</li> <li>(2) 講義の概要</li> <li>(3) 成果と課題</li> </ol> </li> <li>3. 自校史教育〈2〉—戦時下の立教学院             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 『ミッションスクールと戦争—立教学院のディレンマ』の刊行</li> <li>(2) 講義の概要</li> <li>(3) 成果と課題</li> </ol> </li> <li>4. 自校史教育の意義             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学史としての自校史</li> <li>(2) 日本近代史としての自校史</li> <li>(3) 自校史をめぐる教育と研究</li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p> </li> </ol>
11:10 ～ 12:30	<p>□ [大東文化大] 大東アーカイブズの運営と自校史教育への支援 ～創設 86 年、百年史編纂準備活動の中で～</p> <p style="text-align: right;">大東文化大学 兵頭 徹</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大東文化大学に歴史資料館ができるまで             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 先に展示室フロアが出来ちゃった</li> <li>(2) さあ、どうする開設準備プロジェクトチーム</li> <li>(3) 教員と事務職員との協同による組織づくり</li> </ol> </li> <li>2. 大東文化歴史資料館（大東アーカイブズ）の設立             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 運営委員（1号～4号委員）の任命</li> <li>(2) 事務室の開設と専門嘱託の配置</li> <li>(3) 校史編纂部会と展示部会の設置</li> </ol> </li> <li>3. 百年史編纂体制の確立に向けて             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 編纂準備委員会の立ち上げか</li> <li>(2) 百年史事前研究会の開催</li> </ol> </li> <li>4. 自校史教育への支援—学生自身の自己確立の一助に             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 総合教育科目「自分をみつめる科目群」に開講</li> <li>(2) オムニバス形式による講師派遣（委員・卒業生・学長）</li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p> </li> </ol>
13:30 ～ 14:50	<p>□ 京都大学における「自校史教育」 ～何を、何のために～</p> <p style="text-align: right;">京都大学 西山 伸</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の概要</li> <li>2. 授業の内容             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 創立から「大学紛争」まで</li> <li>(2) テーマの限定と資料の重視</li> <li>(3) 授業の実例と受講生の反応</li> </ol> </li> <li>3. 授業の意図             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教養教育として</li> <li>(2) 大学・大学生について考える手がかりとして</li> <li>(3) 「自校史教育」のあり方について</li> </ol> </li> <li>4. 大学アーカイブズとの関わり             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学アーカイブズの果たすべき役割</li> <li>(2) 大学アーカイブズと「自校史教育」</li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p> </li> </ol>
15:00 ～ 16:00	<p>□ 大学史編纂の態様とその活用・効果 ～外部専門家の立場から～</p> <p style="text-align: right;">拓殖大学 武田 秀司</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外部専門家とは</li> <li>2. 大学史「資料編」編纂の意義             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) なぜ、資料編が注目されるのか</li> <li>(2) 必ずしも正史を意味しない</li> </ol> </li> <li>3. 大学史編纂組織             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 内部制作型と外部委託制作型</li> <li>(2) 編纂組織の概略</li> <li>(3) ピラミッド型組織とフラットな横断型組織</li> </ol> </li> <li>4. 制作上の留意点             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 現代は、ディスクローズの時代 (文書に対する認識&lt;「公文書等の管理に関する法律」に関連して&gt;)</li> <li>(2) 見落としがちなこと</li> </ol> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p> </li> </ol>
16:10 ～ 16:50	<p>□ [提言と質疑応答] 大学アーカイブズと自校教育のこれから</p> <p style="text-align: right;">立教学院 寺崎 昌男</p>